

## CIGS 瀬口清之講演会 『グローバル経済をリードする東アジア そのリスクと日本の責任』

グローバル経済における米国の地位が相対的に低下しつつある中、日本、中国、韓国 3 国からなる東アジアの GDP の合計値が昨年、初めて米国を上回った。その中核である中国経済は安定を保持しながら高度成長を持続し、日本経済は 20 年以上続いた慢性的停滞からようやく抜け出す兆しが見られ始めている。その状況から見れば、グローバル経済における東アジアの主導的地位は今後も続く見通しである。

このように重要な役割を担うようになった東アジアであるが、日中関係は領土問題、歴史認識問題等不安定な火種を抱えており、しばしば経済関係にも悪影響を及ぼしてきている。足許は政経分離の様相を呈しており、厳しい日中関係の下でも経済交流は拡大を続けている。しかし、領土や歴史をめぐる摩擦が暴発すれば、経済関係にも深刻な影響が及ぶリスクと常に背中合わせの状態が続いているのも事実である。

中長期的には、2020 年代に中国経済が大きなリスクに直面すると予想され、そのリスクを軽減するためにも日中経済関係の緊密化、それを支える日中関係の改善および安定保持は極めて重要である。

以上のような問題意識に立ち、今後の日中関係の安定確保、そして東アジアの経済発展を通じたグローバル経済への貢献の継続・拡大を展望し、日本は世界においてどのような責任を担うべきかについて問題提起を行いたい。

### <開催概要>

日 時： 2014 年 9 月 4 日 (木) 14:00~16:00

場 所： 一橋大学一橋講堂 学術総合センター2 階 (千代田区一ツ橋二丁目 1-2)

主 催： キャノングローバル戦略研究所

### <講演者プロフィール>

瀬口清之 キャノングローバル戦略研究所研究主幹/アジアブリッジ(株)代表取締役  
1982 年東京大学経済学部卒業後、日本銀行入行。1991 年 4 月より在中国日本国大使館経済部書記官、帰国後 1995 年 6 月より約 9 年間、経済界渉外を担当、2004 年 9 月、米国ランド研究所にて International Visiting Fellow として日米中 3 国間の政治・外交・経済関係について研究。2006 年 3 月より北京事務所長。2009 年 3 月末日本銀行退職後、同年 4 月よりキャノングローバル戦略研究所研究主幹、杉並師範館塾長補佐(2011 年 3 月閉塾)。2010 年 11 月、アジアブリッジ(株)を設立。

### <プログラム>

- |             |  |
|-------------|--|
| 14:00-14:10 | 開会挨拶<br>福井 俊彦 (キャノングローバル戦略研究所 理事長)                               |
| 14:10-15:30 | 講演『グローバル経済をリードする東アジア そのリスクと日本の責任』<br>瀬口 清之 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹) |
| 15:30-16:00 | 質疑応答   |